

自作自白

棚倉中学校のキャリア教育



棚倉町立棚倉中学校長

永山 美雄

棚倉中学校の基本理念

学校で行う、**全ての教育活動はキャリア教育**である。キャリア教育のために新たな教育活動を創造するのではなく、今までの学校の伝統の中で培ってきた現在の教育活動を、キャリア教育の視点でさらに改善をしていく。

改善のねらいは、最終的には生徒の「**自己肯定感**」高め、「**生きる力**」を育むことである。棚倉中学校の教育目標は「**生きる力**」そのものである。

教育目標

「生きる希望」と「生きる力」の育成

- 1 確かな学力
- 2 豊かな心
- 3 健やかな体

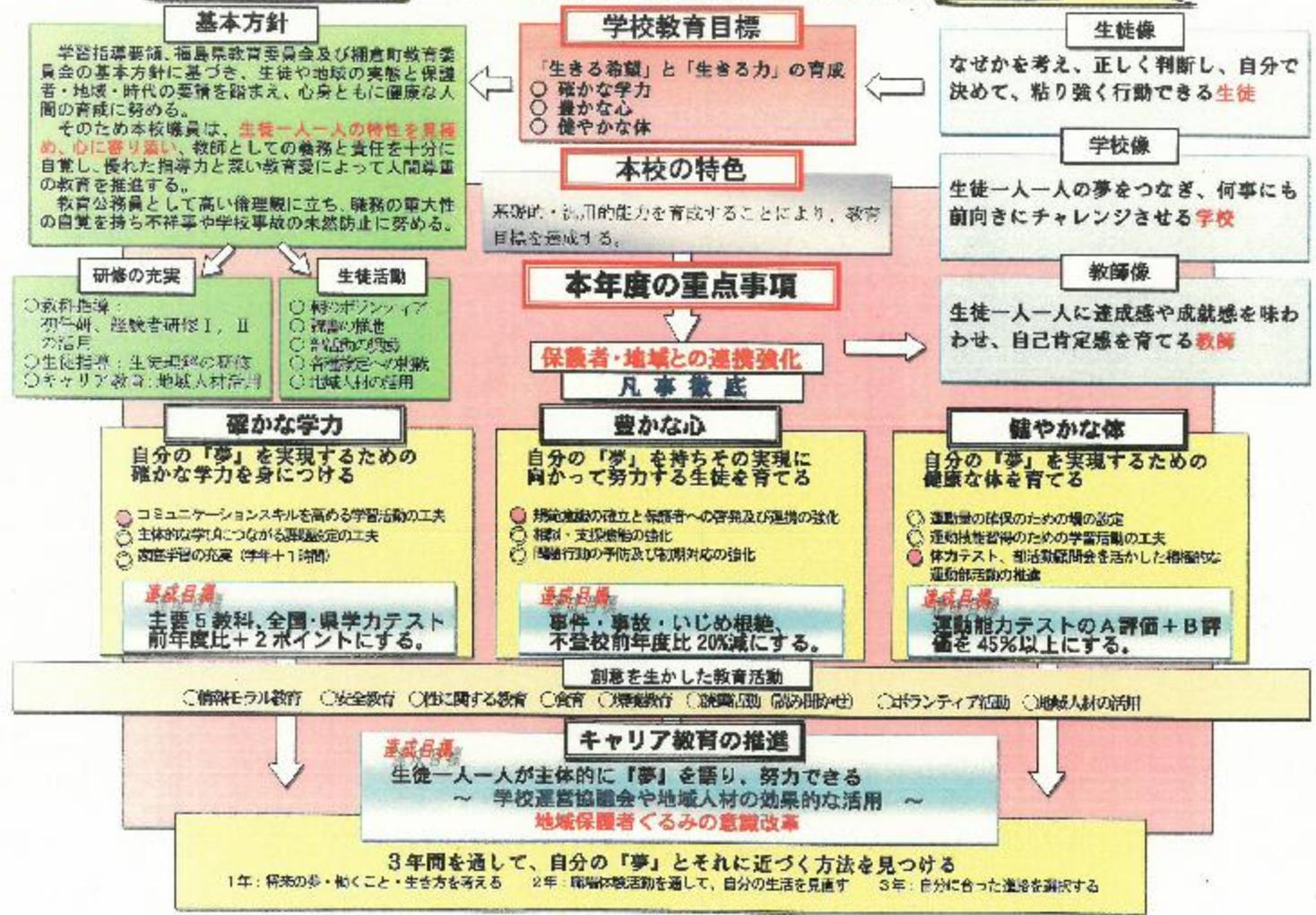
文科省が示す
「生きる力」



平成28年度に今までの教育目標を大きく変えました。自己肯定感を裏付けとする「生きる希望」を持つことが「生きる力」を育成する最大のポイントになると考えます。

平成30年度

棚倉中学校 経営・運営ビジョン



平成28年度に学校教育目標を変えたときに、大きく内容も変更した。「生徒像・学校像・教師像」「基本方針」を変え、「キャリア教育推進」の視点を新たに追加した。

1 キャリア教育とは

【「中学校キャリア教育の手引き」文科省より】

- ・ **とどまることなく変化する社会**の中で、子どもたちが希望をもって、**自立的に自分の未来を切り拓ひらいて生きていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠である。**そのためには、日常の教育活動を通して、学ぶ面白さや**学びへの挑戦の意味を子どもたちに体得**させることが大切である。子どもたちが、未知の知識や体験に関心をもち、**仲間と協力して学ぶことの楽しさ**を通して、未経験の体験に挑戦する**勇気とその価値を体得**することで、**生涯にわたって学び続ける意欲を維持する基盤をつくる**ことができる。また、多くの学校で実践されている**自然体験や社会体験等の体験活動は、他者の存在の意義を認識し、社会への関心を高めたり社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなる。**

2 キャリア教育のねらい

【学習指導要領 第4-1-(3)】

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

じ が さ っ こ

3 自我作古 = キャリア教育

【卒業までに持たせたい使命感】

- ・ 校長が4年間「立志式」で生徒に伝えてきた考え方。
- ・ これは「我より古（いにしえ）を作（な）す」と読み、中国の『宋史』に見られる用語であるが、これから自分がなさんとする事は前人未到の新しい分野であるけれども、予想される困難や試練に耐えて開拓に当たるといふ、勇気と使命感を示した言葉。福澤諭吉が提唱した慶應義塾の根底に流れる使命感。
- ・ 「自分自身がレジェンドとなろう！」と生徒には伝えている。2年前の卒業生が、新たな棚倉中学校の学習や生活面での伝説をつくっていった。

【課題対応能力】

【キャリアプランニング能力】



4 凡事徹底 = キャリア教育

2年前の卒業生が「棚倉中学校の生徒が常に意識して行動するスローガン」として提唱した言葉であり、**当たり前前**のことを徹底して行うという**意味**。当たり前前を考えさせることにもつながり、「あいさつ運動」や「時間のけじめ」「服装の指導」「言動」等、**生徒指導上大きな効果をあげた**。今では毎日の生活や学期末の反省等で、生徒が日常的に口にするようになっている。

【自己理解・自己管理能力】

【人間関係形成、社会形成能力】

【課題対応能力】



「凡事徹底」は体育館や教室、廊下等のいたるところで掲示してあります。生徒が活躍する写真も、かなりの量が掲示してありますが、この**3年間一度もいたずら**をされて**いない**ことや、今年の生徒会選挙では**無効票がゼロ**でした。すべて「凡事徹底」の成果です。

棚倉中学校では、大きな声であいさつをすることも大切ですが
「笑顔」でのあいさつをより大切にしています。それは、大きな声を出せない生徒でも笑顔にはなれるからです。

凡事徹底2018

4つの柱

規律ある行動ができる生徒

- ・返事、あいさつができる生徒
- ・時間を守って行動できる生徒
- ・課題の期限を守って提出する生徒

学力向上に努める生徒

- ・授業に積極的に取り組む生徒
- ・自主学習の充実に努める生徒
- ・話を聴き、自分の意見を伝えられる生徒

思いやりのある生徒

- ・感謝の気持ちを伝えられる生徒
- ・相手の気持ちを考えて行動する生徒
- ・誰にでも優しく接する生徒

学校を大切にする生徒

- ・教室やトイレをきれいに使用する生徒
- ・黙動清掃に取り組む生徒
- ・学校行事を楽しむ生徒

5 各教科 = キャリア教育

棚倉中学校では「ふくしまの授業スタンダード」が出される前から、**次の三つの段階事に授業改善の視点を設定し、授業づくりをしてきた。**

重要な授業改善の方向としては「楽しいだけではだめだけれど、**少なくとも生徒が楽しいと思うような授業**をしましょう！」という教職員間の意識改革をしてきた。

【自己理解・自己管理能力】

【人間関係形成・社会形成能力】

【課題対応能力】

【キャリアプランニング能力】

1 「教材との出会い」と「学習課題の把握」では

- 具体物を提示したり、実演を取り入れたりして生徒の「問い」や「思い・願い」を引出し課題意識をもたせることが大切である。**課題意識**というのはまさしく生徒の「学習したい」という気持ちです。「課題発見能力」という表現で取り組む。
- 課題発見能力をとは
⇒ 面白いから知りたい。不思議だから調べたい。なぜなのかを考えてみたい。と生徒が感じることができる能力。
- 面白い、不思議、なぜ？と思わせるような状況提示を**全ての教育活動の中で吟味し、適する活動で意図的に仕組んでいく。**

2 「追及・解決」の段階では

- 見通しを持たせて、自分の思いや考えを持つるようにし、話し合いによって考えを広げることができるようにすることが大切である。さらに、**教員はコーディネーターとしての役割が重要**である。
- 生徒に課題を持たせたら
⇒ 主体的で・対話的な学習をさせていく。
- 主体的で対話的な学習とは
⇒ 自分が知っていることと知らないことを自己理解し、問題解決に不足している学習内容を**グループ活動や全体で共有する活動をとおして再構成させること。**

3 「まとめ・振り返り」の段階では

- 何を・どのように学習してきたかをまとめさせることや、振りかえさせることが重要である。さらに週末では「新たな学び」に目を向けさせ、
- 「自分のよさ、共に学ぶよさ」を意識させる。
- わかりやすく説明できた、説明を聞いて分かったことにより
 - ⇒ 自己肯定感の育成（賞賛と自信）
- 自己肯定感が高まれば
 - ⇒ 学ぶことの面白さや意義を理解するとともに、「生きる希望」や「将来の夢」を持つようになる。



パイオニア授業
2年3組
ICTを活用して生徒に考えを述べさせてコーディネートしている事例

棚倉町授業研究会
1年1組
ボウリングを用いて課題発見能力を育成した事例



授業周辺部での特色

- 棚倉中学校では6年前から短縮授業は一切行っていません。それは、残りの5分を大切に作る授業をするためです。
「課題とまとめの整合性」や「問いの連続」を大切にしています。
- 定期テストの問題は学期の初めに作成しています。それは、評価のための評価ではなく、「指導と評価の一体化」を図るためです。あらかじめ作成した問題を全員が8割できるように指導しています。従って、テスト期間中でも生徒は職員室の出入りは禁止されていません。

6 道徳 = キャリア教育

【学習指導要領 第1-2-(2)より】

道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，人間としての生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。～（最後の文章）未来を拓ひらく主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。

【自己理解・自己管理能力】

【人間関係形成、社会形成能力】

【課題対応能力】

柵倉中学校では平成28年度に県教委の指定を受けて道徳の研究を行った。特に「**考え議論する道徳の授業**」の創造を教職員全員で取り組んだ。教員の授業力が向上したのは勿論のこと、**生徒の道徳性の高まりにも大きく効果**をあげた。

さらに別様には、道徳的な価値とキャリア教育の視点の欄を設定し関係性を明確にした。このことは**県内にも例がない、全く新しい発想**だと考えられる。

今年度も昨年度に引き続き、保護者会で**全学級が道徳の授業を公開**し、保護者も巻き込んだ授業をするなど、その取り組みは**県教委からも高い評価**を受けている。

平成29年11月8日（水）
棚倉町授業研究会



「新しい教科道德」に先駆け、様々な視点で授業改善に取り組んできました。この写真は映画「コードブルー」のワンシーンを題材に、人の命の尊さについて考えさせています。

心情から行動へ、自己を振り返るから未来の自分づくりへの変換を意図して「考え議論する道德」の創造に全職員で取り組みました。

結果、生徒の学校生活が目に見えて変わっていく様子を、教員が目の当たりにし、**指定校を受け「やってよかった！」という全職員一致した研究成果**でした。

平成30年1月16日(火) 福島県道徳教育推進校授業研究会



県南域内はもとより、県内の
教員及び専門家等の参観による
成果発表の授業でした。

自分ならどう行動する初発の
判断をもとに、相反する意見を
ぶつけ合い、**行動選択の理由付
けが増幅することにより道徳性
の高まりを狙った授業**です。



平成30年11月30日
全学級道徳の授業参観

左の写真 1年2組
「スリーテン」
10人が雪道で遭難。
助けに来た7人しか
乗れないバスに、誰
を乗せるべきか考え
ています。

3年2組 右の写真
「郷土愛」

将来は棚倉に戻る
か？戻る戻らない派
に分かれ、保護者も
意見しながら、生徒
同士が激論を交わし
ています



7 特別活動

= 要としてのキャリア教育

【学校行事】

(生徒が楽しみにしている行事となっている)

- 終業式での学期を振り返る動画放映
生徒の**所属感や連帯感、自己存在感**を高める。
自他の**頑張り**を認め、**笑顔や真剣に取り組むこと**の大切さを認識させる。
⇒ 全員が集中して真剣に見ています。
- 校内体育祭と日輪祭
生徒会役員と実行委員が教師の適切な指導のもと**主体性を育成する**。
⇒ ステージ発表は圧巻の演技です。
実行委員長長の指示で全て動きます。



左の写真は、今年2学期の動画放映のようす。30分間の生徒の集中力は素晴らしい。終了後拍手の渦と化します

右の写真は、今年の体育祭学級が一致団結します。



左の写真は、今年の日輪祭。一日を通して壇上で素晴らしいパフォーマンスを見せてくれます。3学年有志によるUSAのダンスで会場は大盛り上がりです。

(1年生)

- ・ 学習旅行

キャリア教育を意識し、二本松のジャイカを訪問し**社会形成能力**を育成する。

- ・ エリムでの体験活動

総合で実施している**ライフプラン**と抱き合わせで、今年初めて年度末に実施する。

(2年生)

- ・ 職場体験

チャレキッズの体験を発展させた取り組みを意識している。日程等、生徒が企業と直接やり取りをする。

(初めのアポは教員) **発表会を小6と中1に実施**した。現在は3日間だが次年度は5日間で計画する。

- ・ 立志式

昨年度からキャリア教育を意識した取り組みを追加した。**昨年度は「未来への誓い」本年度は「校歌と伝統」**でキャリアプランニング能力を育成する。



左の写真は、ジャイカ入り口で全員集合。お昼には他国の料理を食べさせてもらいました。

母校の高野小で教壇に立つ生徒



昨年度の立志式 棚倉町をもっとよくするために、未来への誓いを全員で立てました。

(3年生)

・修学旅行

もともと、所属感・連帯感や自主性を育成するための行事であるが、棚倉中学校はキャリア教育をより意識し、棚倉町の「良さや頑張り」を鎌倉や横浜でアピールする活動を行っている。
棚倉町に対する郷土愛を持たせることにより、将来の生き方と故郷との関係を考えさせ、キャリアプランニング能力を育成している。

財源は、県教委社会教育課の「子どもがふみだすふくしま復興体験応援事業」の補助金を活用している。

多くの生徒は活動後に良い活動だったという自己肯定感を持つことができています。



鎌倉駅前にて法被に笑顔



横浜橋商店街。横断幕で歓迎



たなちゃん登場！大人気



頑張ったご褒美「すしざんまい」

【総合・学級活動】

・フォーサイト手帳

自己理解・自己管理能力、課題対応能力面で実に大きな成果を挙げている取組である。合言葉は「気づいたら書く」。忘れ物、自主学習未提出の激減。家庭学習と授業とのリンクが図られている。保護者からもとても好評となっている。

※ 別紙資料参照

・職業講話（ようこそ先輩）

今年度は2学年で金澤拓哉氏（ソニー生命）

3学期に卒業生のパイロットを予定

3学年で大相食品の社長

・キャリア教育講演会

昨年度は「早寝、早起き、朝ご飯」の提唱者

元東海大学教授 小澤治夫氏

今年度は「猪苗代湖ズ」渡辺俊美氏



どこでもフォーサイト手帳



金澤氏、棚倉町駅伝監督でもあります



大相氏、自分の体験を熱く語る



渡辺氏、ウィーらぶ福島を熱唱

**キャリア能力は「豊かな体験、豊かな対話」
でしか育たない！**

8 その他 = キャリア教育

【特別支援の目での指導】

- ・ 普通教室には、インクルーシブ教育の視点から特別に支援を必要としている生徒が在籍している。指導内容を下げることではない。

- ・ 知的学級適の生徒
- ・ 知的、情緒の境界にある生徒
- ・ ADHD、LDの生徒

- ただ叱っても伸びないし心にも響かない。
- 受容して良いところを褒めて伸ばす。
- 聞くことが苦手。学習に抵抗を感じさせないようにするために、ICTを活用し視覚的な提示や分かりやすい発問に心がける。
- この生徒たちが、学校全体の生徒指導のキーマンになることを常に忘れずに接する。

【情報活用と情報モラル教育】

これからのとどまることの無い社会の変化に柔軟に対応し、力強く生きていくためには情報活用、情報モラル教育は不可欠である。便利なるものを便利に使い、情報化社会の中で加害者にも被害者にもならない人間を育成しなければならない。

棚倉中では、4年前から力を入れて指導してきた。しかし、保護者が情報機器等を適切に管理できなかった場合と、学習の遅れのある生徒が重なった場合、深刻な依存症となっている事例が多いことが課題となっている。



毎年度4月のスタート時に情報モラルの指導をしています。昨年度はNTTドコモ、本年度はKDDIの専門講師の方々に来ていただいて指導してもらいました。KDDIには昨年度の新入生保護者説明会にもきてもらいました。本年度1月に予定している新入生保護者説明会では、福島県教育センターの目黒朋子先生に依頼したところ、来ていただけることになりました。



パネルディスカッションから ネット接続機器の使い方宣言へ

- 平成28年12月2日（金）
福島県教育センター指導主事
の情報モラル講話の後
棚倉警察署補導員
卒業生代表
PTA会長等で話し合いを開催
- 平成29年2月22日（水）
生徒の実態及び学級のアンケートをもとに生徒会が使い方を宣言



左の写真はパネルディスカッションの様子。生徒の実態調査をもとに問題点や解決法について、全校生で考えた。

右の写真は、使い方宣言をするまでの流れを確認し、全校生徒の意見をもとに宣言をしている様子で、次のパネルが示された。



棚倉中学校 ネット接続機器の使い方宣言

- 勉強中は手元に置かず、使わない。
- 夜10時以降は使わない。
- SNS等で人の悪口や勝手なうわさ話を言わない。
- フィルタリングをして、ネットトラブルを防ぐ。

9 これからの取り組み

今までである形式的なキャリア教育全体計画や年間指導計画を実働あるものとするために、全職員で作成する機会を設定する。

- 今の棚倉中の生徒に育てたい資質能力は何か？**全職員が共有して指導に当たる**ようにする。
- 教育課程に位置付けられている体験活動が、より充実したものとするために、**各教科等の横のつながりを明確にする**。

終わりに

これまでの「チーム棚倉中」の教職員集団が実践してきた教育の成果が、今の棚倉中の生徒の姿そのものです。一番の教育評価は、数値ではなく生徒の姿です。教職員間では数値で一喜一憂するのではなく、常に生徒の姿に目を向けるよう共通理解を図っています。生徒に見られる、所属感・連帯感や笑顔、真剣なまなざしが全てを物語ります。

棚倉中は、ただ学力向上のみを目指す学校ではありません。キャリア教育の最終目標は、自己肯定感の育成であり、教育基本法第一条の不易の理念である「人格の完成」を目指して今後とも職員一丸となって取り組んでいきます。